

平城宮第一次大極殿院地区復原整備のための基礎調査

平城宮跡発掘調査部

1989年度から進めてきた基礎調査の最終年度（6年目）であり、これまでの調査の取りまとめにあたる作業をおこなった。本調査の目的は、第一次大極殿院地区の復原整備計画を立案する上で必要となる基礎的な調査をおこない、資料を集積するとともに復原計画に伴う問題点を検討することにある。調査内容は二つの柱からなる。

第一は、遺構から復原できる建物の位置・規模・構造・意匠を推定し、検討を加え、より制度の高い復原案を作り上げる作業である。第二は、第一次大極殿院を復原するために解決しなければならない問題と、復原した後に生じる問題を予測し、その対応策を検討する作業である。

第一の作業では、1993年度に第一次大極殿院全体の1/100模型を製作し、検討を加えたのに続き、今年度と次1995年度の二ヶ年をかけて大極殿建物の1/10模型を製作するとともに、実施案の前提となる詳細な検討をおこなっている。

第二の作業はさらに二つに分かれる。その一は、復原する第一次大極殿院建物群の及ぼす景観上の影響をコンピューターグラフィックスを用いて分析するために1993年度に実施した復原建物の入力データを利用してアニメーションを作成した。その二は、1978年度に策定した「平城宮跡保存整備構想」のなかに第一次大極殿院の復原を位置づけ、公開・管理・運営上の問題点、および事業プログラム（案）についての検討をおこない、報告書としてまとめた。

（高瀬要一）

アニメーションの作成 昨年度の成果である第一次大極殿院復原建物の詳細なデータを活用して、放映時間6分10秒の「再現・平城宮大極殿」と題したCGアニメーションを作成した。アニメーションの製作にあたっては、第一次大極殿院が主になるものとはいえ、平城宮における位置関係などがわかるように、今年度、新たに朱雀門・第一次朝堂院地区などのデータも加え、和銅遷都時の中枢部の様子を再現した。往時の臨場感が再現できるように、人の目の高さを念頭に置いた構成とするとともに、一部平城宮の現況を交えることにより現地とのつながりをもたせた。また、現地の実写に復原大極殿を重ねたり、部材が組み上がっていく様子も映像化した。

このように、これまでの調査で蓄積された詳細なデータは、復原建物の検討材料になる一方で、実写と組みあわせることにより、様々な地点からの復原建物の見え方を視覚的に捉えることを可能にするものである。

（小林謙一）